

ニュースレター

発行者
キリスト教礼拝音楽学会
〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-48-12-501
TEL/FAX 03-3721-0891
発行日 / 2017年4月1日

キリスト教礼拝音楽学会 第17回大会案内

★テーマ：沖縄語(ウチナーグチ)の讃美歌をめぐって

★日時：2017年5月27日(土) 9:25-16:30

★会場：沖縄キリスト教学院(短期大学・大学内)

なかざとちようしょう
仲里朝章記念チャペル

〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地
TEL098-946-1231(代) FAX098-946-1241 E-mail:somu@ocjc.ac.jp

★主催：キリスト教礼拝音楽学会

★会費：会員 ¥3,000 非会員 ¥1,000



●アクセス/モノレール、タクシーをご利用の場合は那覇空港からゆいレールに乗車、タクシーや路線バスに乗り換え。路線バスをご利用の場合は、那覇バスターミナルより約40分、キリスト教短大入口まで。

●プログラム

- | | |
|--|----------------|
| ■ 受付 (9:00 -) | 会長 伊東辰彦 |
| ■ 開会挨拶 (9:25 - 9:30) | |
| ■ 研究発表・質疑応答 (9:30 - 10:25) | |
| 「教会音楽家奥田耕天 日本プロテスタント教会音楽家としての活動」 | 稲生勝也(当学会員) |
| 「『興亜讃美歌』の歌詞分析」 | 川瀬麻衣(当学会員) |
| ————— 休憩(10:25 - 10:30) ————— | |
| ■ 基調講演 (10:30 - 11:00) | |
| 「沖縄の祈りと音楽」 | 金城 厚(沖縄県立芸術大学) |
| ■ 講演 (11:05 - 11:35) | |
| 「沖縄の讃美歌の創作をめぐって」 | 新垣壬敏(当学会員) |
| ————— 昼食、自由行動(11:35 - 12:30) ————— | |
| ■ 総会 (12:30 - 13:00) | |
| ■ 発表とシンポジウム (13:00 - 15:10) | |
| 発表 「沖縄の讃美歌と地域のアイデンティティー」 | 手代木俊一(当学会員) |
| 「琉球語讃美歌と新垣信一」 | 仲座 巖 |
| 「沖縄語讃美歌の音楽上の問題と方向を探る」 | 高江洲義寛(当学会員) |
| シンポジウム 「沖縄語(ウチナーグチ)の讃美歌をめぐって」 | |
| 司会：比嘉悦子(民族音楽研究家) パネラー：金城 厚、仲座 巖、新垣壬敏、高江洲義寛、手代木俊一 | |
| ————— 休憩(15:10 - 15:20) ————— | |
| ■ 「沖縄の讃美歌」を歌う(15:20 - 16:30) | |
| セラの会、カンタ・カトリカ、平良川教会、高原教会、首里教会員有志 | |
| 沖縄民謡で歌う讃美歌[三線伴奏] | |
| 琉球旋法による讃美歌 | |
| 新垣壬敏の讃美歌・オルガン曲[糸洲のぶ子] | |
| ■ 閉会挨拶 (16:30) | 会長 伊東辰彦 |

参加申込：5月8日(月)締切・厳守

大会案内の申込書に記入し、下記宛、郵送・メールのいずれかで、お申し込みください。
多くの方のご参加をお待ちいたしております。参加費は郵便振替口座「キリスト教礼拝音楽学会 01360-5-91714」に大会費と明記し、お振込みください。

申込先：〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-48-12-501 手代木方 キリスト教礼拝音楽学会大会係
Tel: 03-3721-0891 (手代木) E-mail: gammo@ka2.so-net.ne.jp

沖縄キリスト教学院のご紹介 —いざ起て友よ、永遠の、平和の業にいそしまん—

沖縄キリスト教学院
宗教部長 金永秀(キム ヨンス)

2017年度「キリスト教礼拝音楽学会」が私ども、沖縄キリスト教学院(沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学)を会場におこなわれますことを心より歓迎し、お慶び申し上げます。学会に参加されます皆様方が、かつて琉球王国として文化を花咲かせた地で、良き研究の時をもたれますことをお祈り申し上げます。以下、学会会場となる「沖縄キリスト教学院」についてのご紹介をもって、ご挨拶に代えさせていただきますと思います。

沖縄は、海がひととき美しい自然の豊かな島です。しかし、歴史・文化・社会のことを考えますならば、見た目とは全く異なる苦難の姿を認めざるを得ません。自然の美しさと豊かさにクサビを打ち込むように米軍基地がつくられてきましたし、現在進行形で新しい最新鋭の基地が強制的に造られようとしております。それは、米軍によるだけではなく、日本政府と社会が強制の圧力に深く加担していることは明白です。

沖縄の近代は、「処分」され、支配され、収奪されてきました。文化や言語も又、しかりです。今日の沖縄の教会において、琉球の言葉(シマクトゥバ)による賛美歌が、日本語の賛美歌のように唄われない現状は、そのことに関係するとおもいます。そして、何よりも忘れてはならないのは、沖縄が戦争状態を歩むことを余儀なくされてきた歴史です。

沖縄キリスト教学院は、1945年の太平洋戦争の最後の戦場となった、沖縄戦の悪夢と傷が深く残った廃墟の中、精神的支柱を喪失し希望を失った若者達にキリストによって新しい生き方の原点を指し示し、沖縄再建の担い手として彼らを社会に送り出すべく創設されました。創設に関わった第三代学長の金城重明先生は、その歴史的・精神的背景を考える時に、1)沖縄戦 2)敗戦による精神的支柱の喪失 3)キリスト教と沖縄再建 という三点を外すことのできない重要事項であると指摘しています。

沖縄戦は、「鉄の暴風」と形容される程に沖縄を砲弾と死の恐怖で舐め尽くし、甚大な人的、物的被害を与えました。日米両軍含めて20万人余の尊い命が失われ、当時の沖縄の凡そ3分の1に当たる住民が犠牲になったのです。

その傷が癒えぬ中、「学院」は1957年4月9日沖縄キリスト教団(現在の日本キリスト教団沖縄教区)によって創設され、首里教会において各種学校「沖縄キリスト

教学院」として出発いたしました。1959年には琉球政府より「沖縄キリスト教学院短期大学」としての認可を受けることとなります。1970年には「沖縄キリスト教短期大学」への名称変更をし、1972年の日本への「施政権返還」にあたり、日本の学校教育法における短期大学と認められました。そして、2004年には「沖縄キリスト教学院大学」が新設されました。学院大学は、今年で丁度60年の歴史を刻んできたこととなります。

創立者と建学の精神について

このように、「沖縄キリスト教学院」の創立は、沖縄戦を経験したキリスト者達の経験と懺悔無くして語る事は出来ません。初代学長・理事長の仲里朝章なかざとちやうしょう牧師は、学院創設の中心人物です。彼は、首里の士族の出身で、落ちぶれ行く自分の故郷を復興することを期して、鹿児島旧制第七高等学校「造士館」(現鹿児島大学)を経て、東京帝国大学(史学・経済学・農学)に学びました。しかし、東京留学中に妻子を失い、悲しみの中でキリスト教の門を叩いてクリスチャンになりました。植村正久牧師の牧会する富士見町教会で信仰を育み、やがて長老としてその教会の指導者の一人になりました。

大学卒業後も東京に残り、女学校の教員として働いていた後、1939年に沖縄に帰ってきます。そして、那覇商業学校(現・那覇市立商業高校)の校長に就任することとなります。時は、戦争が中国大陸からアジア太平洋全土に拡大しようとする時代でした。当時の校長達がそうであったように「教育勅語」を教え、皇民化教育の一翼を担うこととなります。その結果、沖縄戦では教え子達を「鉄血勤皇隊」として戦場に送り、90%以上が帰ってくることはありませんでした。又、三女は「ひめゆり隊」で犠牲になり、自身も後頭部に被弾するという悲惨な体験をしました。

沖縄を焦土に変えた戦争の苛酷な爪痕は、住居や財産、文化財等の破壊焼失に止まらず、人々の心に消し去る事の出来ない深い傷痕を残し、虚脱感を蔓延させました。日本の敗北は、沖縄の人々の精神に根深く打ち込まれた明治以来の精神的支配統合の原理、皇民化思想を根底から突き崩しました。天皇を神聖視し、日本を神国として絶対化した独善主義の虚像は霧散しました。しかし、皇民化されることは、被差別の歴史を強いられた沖縄県民にとって、日本のどの地域よりも日本の一員となること

を約束する“手形”となったとも言えます。沖縄戦は、死を以て皇民としてのアイデンティティーを確立する契機とも思われたのですが、結果的にはアイデンティティーの瓦解、生命の喪失をもたらしました。

戦後、仲里先生は敗戦後捕虜収容所の宜野座村で戦後初の男女共学の教育を始め、現在の宜野座高等学校の初代校長に就任するのです。しかし、ある事情から学校を辞任して伝道者に献身するようになります。辞任に際して彼は次のように記しました。

「戦後の教育は目標を失い、教育勅語も地に落ちて顧みられず、私は教育家としての熱情を失ったので辞職し、裸の伝道者としてもっぱら宣教のわざに精進することにした」

かつての思想の呪縛から解放された教育者仲里先生にとって、キリストに在る教育こそが人格を完成する真の教育でした。沖縄戦と日本の敗北を体験し、目標喪失と虚脱感に沈んでいた人々の精神的空白を埋め得るものは、聖書の言葉以外にはないという確信を抱いたのです。

教育界を離れた仲里先生は、戦火によって崩れた沖縄キリスト教団(現在の日本キリスト教団沖縄教区)首里教会の牧師になりました。戦後の精神的混乱の中で、沖縄の人々が新しい生き方の座標軸をキリスト教に求めた状況の中、キリスト教が新沖縄建設の精神的支柱にならねばならないという使命感が沖縄キリスト教界にあった時代です。この様な状況の下、キリスト教精神によって若者達を教育し、教養、知識技術を身につけさせて沖縄再建の担い手として社会に送り出す思いが与えられました。そして、仲里牧師を中心として「学院」が誕生したのです。彼が牧会する首里教会が、その最初の校舎となりました。

仲里牧師は、戦時中、皇民化の枠組みの中で若者達を偽りの教育によって戦場に駆り立てた教育者として大きな悔いと懺悔の思いを抱いていました。その慚愧の思いを伺わせるエピソードが残されています。戦後、那覇商業学校の教え子が、牧会する首里教会を訪れた時、その教え子に居住まいを正してひざまずいて謝りました。「自分は嘘の教育をしてしまった。罪滅ぼしのために、神様へのおわびのために、これからは本当の教育をしなければならない。あなたも祈ってほしい」。

仲里牧師のみならず、沖縄キリスト教学院の創立に関わった人々、そして歴代の学長の多くは沖縄戦を経験した、あるいは、戦争に至らせた教育に対する反省と痛みを胸に平和の問題に深く関わった人々でした。先述しました第三代金城重明学長は、渡嘉敷島での「集団強制死」(いわゆる集団自決)の経験の中で、キリストに導かれて

牧師となった方です。第四代大城実学長は、沖縄戦の砲弾の飛び交う中を避難しながら片足を失われたのです。その他、平良修第二代学長は、米軍の沖縄支配に対する抵抗の祈りをもって平和のメッセージを発信し、今も平和運動に身を挺しておられます。

本学院大学の「建学の精神」キーワードは、1) キリストの教えに根ざし、2) 沖縄の痛みと歴史と現状の中で、3) キリストの示された真の平和を学び求めることです。

今回の学会会場となったチャペル屋上には、十字架を冠した鐘塔が聳えております。そこに実際の鐘は付けられておりませんが、この大学の忘れてはならない経験を象徴したものです。かつて、仲里朝章牧師が牧会された首里教会の戦時中の教会の屋根の鐘塔が、そのモデルとなっております。添付の写真は、その首里教会堂が戦争のただ中に呑みこまれた姿を映しだしております。このようなことを、二度と起こさせない。キリストにある、真の平和を担う人材養成の教育が理念となっております。

最後に、仲里先生が戦後の米軍支配の中、収容所で始めた教育においてうたった詩が、宜野座高校の校歌になっていますが、その二番をご紹介します。

筆執る我等に希望燃え
 鋤もつ我等に力満つ
 正義と愛の誠持て
 我等の使命果たさなん
 いざ起て友よ、永遠の
 平和の業にいそしまん

懺悔の中で、「正義と愛」による「希望」と「使命」と「永遠」を見据えた創立者の祈りと賛美の思いが滲み出ております。

主を拝する音楽についての教育と研究が、沖縄の地でますます豊かなものとなりますことを、重ねてお祈り申し上げます。



★役員会報告.....

- ①日 時：2016年11月20日(日) 14:00-15:00
場 所：奏アンサンブル(池袋：東京芸術劇場2F)
出席者：赤井、安積、伊東(会長)、金澤、佐々木、手代木、川瀬(書記)
議 題：学会誌、ニュースレター、第17回大会について
- ②日 時：2017年1月29日(日) 14:00-15:15
場 所：奏アンサンブル(池袋：東京芸術劇場2F)
出席者：赤井、新垣、伊東(会長)、手代木、川瀬(書記)
議 題：・大会の企画について・・・会場、プログラム
・ニュースレター、大会案内、学会誌
- ③日 時：2017年3月26日(日) 14:00-15:30
場 所：奏アンサンブル(池袋：東京芸術劇場2F)
出席者：赤井、新垣、伊東(会長)、佐々木、手代木、川瀬(書記)
議 題：・大会の詳細な企画について・・・会場、プログラム
・ニュースレター、大会案内、学会誌

★学会誌発行予定.....

第16号 学会誌..... 4月半ば刊行予定

- 内容・巻頭言..... 新垣壬敏
・論 文..... 赤井 励
伊東辰彦
佐々木悠
・研究ノート 手代木俊一
・第16回大会プログラム・報告・・・伊東辰彦

★会員出版物の案内.....

募集*編集委員会より会員の最新刊行物を掲載し、皆様にご紹介したいと思います。編集委員(手代木、佐々木)までお知らせください。

★会費納入のお願い.....

会の運営に対して、いつも支援をいただき感謝申し上げます。2017年度会費、また、2016年度の会費をまだ納入されていない方は、ぜひ新しい口座にお振込ください。よろしくお願いいたします。

キリスト教礼拝音楽学会

郵便振替口座 01360-5-91714

入会金：3,000円(入会時のみ)

年会費：正 会 員 6,000円

準 会 員 3,000円

賛助会員 20,000円

- ・振込用紙には* 年度/正・準・賛助会員/会費(金額)を必ず明記の上、ご送金ください。
- ・住所変更等も、お知らせください。
- ・会費納入についてご不明なことは、下記にご連絡をお願い申し上げます。

会計担当 佐々木しのぶ

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-2-604

TEL/FAX 022-796-3897

E-mail : sshinobuorg@ybb.ne.jp

